

成願寺

季報
112

平成 29年 2月 18日
(2017年)

目次

| | |
|-----------------------|----|
| 「功德無量の観音様」内田良光…………… | 1 |
| 一泊坐禪会の報告…………… | 7 |
| 日本オマーン学生交流会開催の報告…………… | 9 |
| 山内短信…………… | 12 |

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十八年納めの観音説教

功德無量の観音様

山梨県宝幢院住職 豊川稲荷東京別院知客 内田良光

お話を賜った内田良光師とは、三十年ほど前、四年間修行した鶴見の大本山掬持寺で、同安居(同期)として一緒に研鑽させていただきました。年齢は私よりも少し上ですが、年下の修行僧にも偉ぶらず、親切な優しさに溢れた方です。修行を終えられた直後より、長きにわたり豊川稲荷東京別院で布教活動に力を入れていらつしやる尊敬する方丈様です。(小林要介)



山梨県宝幢院住職
豊川稲荷東京別院知客
内田良光老師

みなさん、こんにちは。ただいま若方丈様にご紹介いただきましたが、私は豊川稲荷東京別院の知客を勤めております。参拝のみなさんの接客係りというわけでございます。また、山梨県の石和温泉にございませう宝幢院の住職も勤めております。

本日は納めの観音様ということでございますので、なぜお稲荷さんのお寺さんが話をするのかと不思議に思われる方も多いかと存じますが、春の観音詣りにお見えの際に、境内に子宝観音様がお祀りされているの気がつかれましたでしょうか。その名の通り、子宝祈願にご利益のある観音様でございますが、同時に良き子孫の繁栄を祈願される方が多くいらつしやいます。そういうこともございまして、本日お声をかけてくださったのかなと思っております。

豊川稲荷にはもともとは観音様はお祀りしてございませんでした。が、ある一人の信者さんの発願によつて昭和五十七年に安置されました。手元に子宝観音様の開眼願旨というものがございましてので読み

上げてみたいと思います。

この度津田家の宿植善根の因縁熟し、豊川稲荷別院に子宝観音様の御尊像が寄進せられました。乃ちお子様に恵まれぬ方のために、また恵まれたお子様の健やかなご生育のために、観音様のお慈悲を乞い願ひ、みなさまが眞の子宝に恵まれますよう祈念いたします。

この津田様という方は、もともと豊川稲荷の信者様でとても熱心にお詣りをされてきました。ただ、子宝に恵まれず、どうにか授かりますようにと、お稲荷様に祈願されていた。そうしましたら、お稲荷様より「ここに子宝観音様を安置しなさい。そうすればあなたに子供が授かるであろう」とお告げをいただいたというのです。津田様はお稲荷様のお告げの通りに子宝観音様を奉納し、開眼供養も執り行なわせていただきました。そうしてしばらくしましたら、お詣りにお見えになりました。「ありがとうございまして。無事に子宝を授かることができました」と感激したご様子で報告に見えた。

信じる力というのはすごいですね。まずお稲荷様が応じられ、そして観音様の功德をいただくことが

できたわけです。それからというもの、著名人の参拝また皇室からお忍びでお詣りに見えられたこともございます。そして子宝を授かる方が多くいらっしゃる。それくらい力強い観音様でございます。

今日、みなさんも観音堂でご祈願があったようですが、観音様のお力、お慈悲というのはとても強い。みなさんの信仰心が本物ならばきっと心願を叶えてくださるのではないかと思っております。

ありがたい功德を感じ取る

観音様のお話をもう少しさせていただきますが、正式には観世音菩薩、または観自在菩薩と申し上げます。さきほどみなさんは、般若心経と観音経をお読みになられましたね。観音様なのですから観音経はわかりますが、なぜ般若心経を読んだのでしょうか。

般若心経の最初に観自在菩薩と観音様のお名前が出て参ります。では、そもそも般若心経とはどんなお経かと申しますと、玄奘三蔵法師が大般若波羅蜜多經という膨大な經典をインドから中国へ伝えました。西遊記の物語でも有名ですね。その大般若波羅蜜多經から、特に大切な空の思想の部分を抜粋したものが般若心経なのです。

ここで思い出された方もいらつしやるかと思いますが、西遊記では観音様が常に三蔵法師一行を見守っておいででした。三蔵法師も常に観音様を近くに感じて旅を続けていらしたでしょう。

般若心経では冒頭で、観音様が修行の際に、この世の五蘊（人間の肉体・精神の五つ、その集まりのこと。色蘊、受蘊、想蘊、行蘊、識蘊）には実体がないことを明らかにし、この智慧によってすべての苦しみや災いから解放された、と説いています。これは、お釈迦様が弟子たちと共に靈鷲山にいらした時のこと、弟子の舍利子に呼びかけた言葉なのです。つまり観音様の深淵なる智慧を説いた経典が般若心経なのです。ですので、観音様の様々な慈悲、功德を説いた観音経と共に般若心経をお唱えするのです。

みなさん、では具体的にはどんなことが書かれているのかなと思われるかと存じますが、意味はあまり調べないほうが良いのです。調べるのではなく、自分で感じ取っていただきたいのです。人間一人一人異なりますから、それぞれがどのように感じ取ることが大切で、そうしますと、自分にとって一番ありがたいご利益、功德というものになるのです。

まずは反省と感謝の心

観音様は先ほど申しましたが、観世音菩薩と申し上げます。菩薩とついていますね。これは、まだ悟りを開いていない、修行中のお立場のことをいいます。ではなぜそれでも信仰の対象なのかと申しますと、仏様と我々凡夫の間に立ち、導いてくださる存在だからなのです。ですので古くからの信仰の一つに、現世利益がございます。これは、今、生きている私たちの願いを叶えてくださるということです。もう一つは来世救済。こちらは、私たちがあの世に旅立つ時に導いてくださるということです。

ですが、観音様の功德、お慈悲はなんと申しても現世利益かと思えます。我々の苦しみに応じて、三十三もの姿に変じて救ってください。ではどんなご利益なのかと申しますと、諸々の苦難除去、病氣平癒、智慧や才能の授与、子授け、希望成就、開運授福、靈魂や先祖の成仏、罪障消滅、極楽往生とまだまだある。先ほどみなさんが読まれた観音経普門品偈に「念彼観音力」という定型句と共に様々な苦しみに悩む人々を救う。衆生のあらゆる危難を取り除き利益を与えてくださると繰り返し説かれている

のです。たいへんにありがたいですね。では、みなさんでしたらどのようなお願い事をされていますか。健康でしょうか、または家内安全などもあるかと思えます。でも、私もそうですが、人間は良いことばかりできるわけではございませんね。仏様の教えのように、悪いことはしない、良いことはかりしよう、と思ってもなかなか実践できないのが私たちです。ですので、まず仏様、菩薩様の前に立ちましたら、両の手を合わせて、頭をさげて、懺悔さんげをするのです。悪いことをしていても、こうして生かされている私たちです。そこに自然と感謝の気持ち湧いてくるのではないかと思うわけでございます。

私の普段おります豊川稲荷は、祈禱寺なんです。参拝のみなさんの祈願を日々お受けしています。みなさん、いろいろと願うことがある。でも最初に反省の心と生かされている感謝の気持ちを持つていた。だいた上での願い事かと思つてゐるのです。そして、その願いが叶つた時にはぜひお礼のお詣りをしていただきたい。人間同士が相手なら、何かをしていただいたあとにお礼をしますね。神仏に對しましても必ずお礼をすること。しませんと、せつかくいだいた功德が半減してしまうのです。

でも、とりあえず忙しくてすぐには行けない、なんて時でも、できれば日々そうしていただきたいのですが、朝、起きましたら、神仏に對してその場でけっこうですから、心の中で、反省と感謝を思つていただく。夜、布団に入つて目を閉じてからでけっこうですから、今日も一日、ありがとうございました。それだけで、生き方自体が変わつてくるのかなと思つうわけでございます。

そうしたことは、誰も知らなくて良いのです。観音様が高いところからずーつと観ていらつしやるのです。信仰心のないだらけた生活をしておりますと、三十三のお姿のどれかに變じて、お説教にお見えになるかもしれませんね。日頃の我々の行ないそのものが自分の人生になるのです。

観音様の多様性

次に變幻自在な観音様、代表的な六観音をご紹介します。したいと思います。まず、聖観音様しやうくわんが一番主要な観音様で、成願寺様の観音堂のご本尊様も聖観音様です。阿弥陀如来の化身といわれています。

つぎに千手観音様。衆生を救いとる無数の手をお持ちになり、千人同時に救済する力をお持ちです。

千とは無量円満のことで、実際には合掌する二本以外に四十本の手を持ち、一本の手で同時に二十五人を救済すると言われています。掌には眼があり、常に我々衆生を觀ておいでです。奈良の唐招提寺には千本の手を持つ千手觀音様が祀りされています。

馬頭觀音様は柔和な表情をされたご尊像が多い觀音様の中にあつて、とても怖い表情をされています。成願寺様の境内にも一体お祀りされていますのでご存じかと思いますが、頭上に馬の顔がある。とくに農耕などで馬を飼っていた地方での信仰が盛んであつたようですが、馬が草を食い尽くすがごとく「人の煩惱」を食い尽くしてくださると言われています。忿怒の形相で様々な苦惱や災難などの諸悪を粉碎してくださることから、觀音様でありながら大持力明王、馬頭明王との異名も持つておいでです。

十一面觀音様は名前の通りに、十一のお顔が四方八方、また天地を常に見守り、さらにそのご尊顔はそれぞれに異なり、私たちを励ましたり、叱つたりしてくださっています。まず前に三面、菩薩面という慈悲を現すお顔がございます。次に左の三面は瞋怒面という悪人をいさめるといってお顔です。右の三面は狗牙上出面は優しい表情で人々を励ますという

うお顔。後ろの一面ございまして、これは大笑面といい、大笑いして悪行を笑い飛ばしておいでです。さらに頂上に仏面という仏道に入った者に教えを説くお顔がございます。それぞれが、阿弥陀如来の宝冠をいただいているそうです。なかなかね、大笑いしているご尊像というのが思い浮かばないと思います。強いて申し上げれば、七福神でしょうか。十一面觀音様の後ろにまわつて拝する機会にもし恵まれましたら、めつたにないと思いますので、ぜひよくご覧いただきたいと思ひます。そして、身近な悪行を笑い飛ばせるようなお心持ちになつていただきたいなと思つたわけでございます。

次の如意輪觀音様は如意宝珠という宝の珠と法輪という輪を持つておいでです。如意宝珠は智慧や財宝を授けてくださいます。法輪は煩惱を打ち砕いてくださいます。

さらに、准胝觀音様、不空羂索觀音様がいらつしやいます。これでは七觀音になつてしまつわけですが、真言密教では准胝觀音様で六觀音。天台密教では不空羂索觀音様で六觀音とされています。准胝觀音様は清浄な水の働きにより、煩惱をも浄めてくださる。不空羂索觀音様は、人々の願いや苦惱を逃

すことのない羅索という捕縛用の縄をお持ちですの
で、願いが叶わず、空しいことがないといえます。

ところで、私たちはこの世とお別れをしますと、
六道のどこかに輪廻りんねするといわれています。すなわ
ち地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道
のことで、それぞれに聖観音様、千手観音様、馬頭
観音様、十一面観音様、准胝観音様と不空絹索観音様、
如意輪観音様がお姿を現して我々を救ってください。

いまご紹介した六観音様に子宝観音様が入ってい
ませんが、私どもの安置する子宝観音様は元は白衣
観音様で、最も女性らしい優しさをもち、息災
除病、救児、安産の本尊様とされています。

尽きることのない観音様の功德

観音四万六千日という事をお聞きになったことが
ございますか。観音様のご縁日、本日の十八日でご
ざいますが、これと別に「功德日」というものがある
そうです。その中でも特にすごい功德があるのが
七月十日だそうです。浅草寺様などでは多くの参拝者
で賑わう。どんな功德なのかと申しますと、この日
にお詣りされますと、なんと四万六千日分お詣りし
たのと同じご利益をいただけるというのです。これ

は、何年分だと思われれますか。私たちがおぎやあと
生まれから毎日参拝しても叶わない年数です。約
百二十六年分に相当します。そんなに生きられる人
は稀だと思えますが、本来はそのくらい生きられる人
またはそうした願いが込められているのかと思いま
す。お米の一升分がちょうど四万六千粒だからとも
いわれているようですが、いずれにしましても、観
音様の功德というのはとどまるどころがないと思
うわけでございます。

ですが、実は観音経の中の一説に「無尽意むじんい 若
有人うにん 受持じゆじ六十二億恒河沙菩薩名字」とありま
す。これは、一時でも観音様を礼拝供養したもの
は、六十二億恒河沙、これはガンジス川の砂の数
ほどという意味です。そういう無数の菩薩を寿命の
尽きるまで供養することに等しい、というのです。
四万六千日の信仰と同じような功德がちゃんと観音
経に説かれているのです。

本日は年末のお忙しい中、観音様に参拝され、一
年間の反省と無事に対する感謝のお心をお持ちにな
れたことと思います。どうか信仰心を大切に、元氣
で新年をお迎えいただければと存じます。

平成二十八年度成道会一泊坐禅会の報告

昨年、十二月三日（土）、恒例の成道会一泊坐禅会が修行されました。お説教は、静岡県掛川市少林寺東堂の井上貫道老師が、坐禅指導は、八王子市少林寺副住職大石隆元師がそれぞれ担当されました。以下に参禅者の感想文を紹介します。



*立ち居振る舞い、坐り方、食事の仕方など、全てにおいて作法とその意味があるということを学ぶことができました。現代の暮らしにおいては、ともすると人々が忘れてしまう、または気を配らなくなってしまうようなものを、そのほんの一部ながら経験することができました。実際の坐禅の中では、姿勢を保ち続けるだけでも苦労しましたが、静かな空気のなか、坐禅ができたことに感動しました。今後も継続して禅を学ぶ機会を設けたいと思います。

*掃除をすることで煩惱を払う。お食事の食べ方を通して生活の無駄（水の使い方）をしていたことに気づくことができました。

*なかなか無心の境地には至れませんが、ただ静かに坐って姿勢に気をつけるだけでも気持ちのよいものでした。早朝のお掃除もある種の瞑想のようで心が洗われました。一人では意思が弱くなかなか坐禅の時間を持てませんが、他の方と行なうことで集中しやすいのでありがたかったです。朝の食事も何一つ無駄にせず、この世の恩恵をいただくという行為が大変勉強になりました。感謝の気持ちを忘れず、気持ちよく笑顔で生きていきたいと思えます。

*自分自身と向き合うことがいかに大切でかつ難しいことか改めて教えていただいたように思います。坐禅だけでなく、掃除や食事の作法一つとっても、実にひとつひとつの動作に意味があり、それらを通して「私たちは生かされている」。そのことに気づかされ、改めてありがたいと思いました。

*坐禅のみならず、法話、お勤め、食事、礼儀作法等々、日常生活の中で日頃気付かないことを改めて認識することができ、また自分自身にとつて、これからの人生を送るにあたり、何かしら得るものがあったと感じることができました。

*緊張したり戸惑うことも多かったのですが、坐禅を組んでいるときはなんだか落ち着いてとても良

かった。

＊法話にてお伺いした「自覚」という言葉について考え、感じ、探した一日でした。自身の普段の生活では、あらゆる時間のなかで他者との関わりを感じ、時にそれに苛まれることもあります。そのなかで坐禅をし、境内にいる間は「今、此処」にしていることを感じるよう気持ちを切り替えて臨みましました。まだまだ意識が残り、「今、此処」に純粹に向き合うことはできませんでしたが、今の時間や空間、誘ってくれた友人、また居合わせて一緒に一日を過ごした皆様、そして自分自身を大切にするという考え方を実践できたことに大きな意義を感じましました。「今、此処」に生き、自分なりの「自覚」をもって日々を過ごせるよう、自分の人生の周囲に感謝して全うできるように精進したいと思う次第です。

＊薄暗いお堂の中で坐っていると、白壁に写し出された私の坐相が、仏様と同じ姿。七年目にしてはじめてみる事ができました。お釈迦様ととても親しくなれた瞬間でした。井上老師のお話、優しい語り口の中に何かとても大事なものがあると感じましました。＊井上老師の話には感銘を受けましました。自分の今の想いに刺すような話し方、ドキリとしながら話を聴

きましました。その中で「気付く」ということの大切さ、日々の生活の中で自分のしていること、思っていることをもう一度考え直し、その中で気づきがあればいいと思いましました。

＊ただ何も考えない事と言われても、宗教ってそういうものかと煮え切らない思いでいましましたが、今日のお話を聞きとても納得がいった気がします。

＊老師のお話は我々俗世の人々の考え方とは異なることが多く、仏教の考え方を理解するのは遠く及びませんが、今回の体験をきっかけに、少しずつ勉強し、理解を深めていきたいと思います。

＊井上老師のお話、「自覚」について神髄の端に着いた気がします。経本を読む我々は行間を読めと言われてまいりましたが、老師には書いてあること以外は何もないといったことを教えていただきました。

＊昨年の春から社会人となり、学生時代に比べて悩みもプレッシャーもそして欲望も多くなりましました。従って坐禅で心をしずめて普段いろいろ考え過ぎてしまいう心身を休もうとしましました。一日でしたが、坐禅だけでなく、読経や講義、お食事の作法のご教示等々それぞれに学びがありました。これからの生活においてその学びを適用していききたいと存じます。

日本オマーン学生交流会開催の報告

日本中東学生会議メンバー 法政大学 高尾 彩衣

去る十一月十九日、二十日の二日間、日本オマーンクラブ主催でインターカレッジの学生団体、日本中東学生会議が中心となり、日オ学生交流会が開催されました。参加者はオマーン人留学生八人と日本人学生九人、日本オマーンクラブからも九名がオブザーバーとして参加しました。

一日目は、東京中野坂上の成願寺附属たから幼稚園にて交流会を行いました。各グループ四名ずつ分かれ、前半は文化交流として型抜きと福笑いを楽しみました。型抜きは非常に難しく苦戦している様子でした。日本のお祭りにおいてはうまく型を抜くことができ



福笑いに挑戦するオマーン人留学生



日本人学生によるプレゼンテーション



お菓子とお茶の伝統的なお菓子のプレゼンテーションを行いました。二日目は、朝成願寺において坐禅を行いました。非常に長く感じられました。日本人、オマーン人留学生ともに苦戦しました

ば賞品がもらえると聞いたオマーン人学生は、慎重に取り組んでいました。福笑いは好評で、可笑しな顔に一同大笑いしていました。

後半は「日本の文化の多様性 関西と関東の違い」というテーマで日本人学生がオマーン人学生に対しプレゼンテーションを行いました。今年には関西からの学生が多いためこのテーマにしました。それぞれの主な観光名所や歴史の変遷、言葉の違い、食文化の違い、エスカーターでの並び方の違いなど、日本人学生オマーン人留学生共に興味深い内容でした。その後各グループでディスカッションを行ない、日本人学生は「オマーンにもこのような違いは各地にあるのか」といった質問をしたり、オマーン人学生は「関東にもいくつかの方言があるのには知らなかった」といったコメントをしたりしていました。交流会終了後、両国の学生参加者全員がハラール（イスラム法で合法な）レストランで夕食を囲み楽しいひと時を過ごしました。

が、最後に方丈様から、中東の生活スタイルから直に坐ることになれているオマーン人留学生は、畳と坐蒲に坐るのも上手であったとお褒めの言葉を頂きました。また、仏教やイスラーム教、キリスト教の教えやお祈りの方式が似ているところもあると教えていただき、学生全員が強い関心を抱きました。

坐禅終了後、朝食を共にした後、東京都庁の展望台へと向かい東京の景色を見てもらいました。ちょうど天気が非常に良く晴れていたので富士山や西方の山々を見ることが出来ました。中でも新宿のコクーンタワーに興味を持ったようで暫く写真を撮っていた事が印象的です。日本人、オマーン人留学生ともに中身の濃い時間を過ごす事が出来たと思います。

参加した学生さんより感想文が届きました。オマーン人の学生さんからのものは英文でしたので、翻訳して紹介します。

日本中東学生会議メンバー 東京大学 須田 彩佳
オマーンという、日本人にとってはほとんど交わる

機会の無い国の学生と交流できたことはとても新鮮だった。こちらからの「文化紹介」としてプレゼンをしたり型抜きや福笑いを紹介したりしたことも、「日本

の文化とは何なのだろう」と考える良いきっかけになった。私は日本中東学生会議に所属しており、もともとそのような意識はあるわけだが、今後はもともとあまり他文化や自文化を意識していない人々にも、意識を持ってもらえるような発信をしたい。

横浜国立大学 Khalid Al Shanfari

二〇一六年十一月十九日と二十日の土曜日と日曜日、東京で日本オマーン学生交流会が開催されました。この年次会合は、これまでも様々な学生交流活動を行ってきた日本オマーンクラブが日本中東学生会議の参加を得て主催しました。最初に日本オマーンクラブ事務局長のジョーンズ亨子氏が歓迎の言葉を述べました。参加者は、主にオマーンと日本の学生、会場は成願寺で、オマーン人学生や付き添いの日本人学生はその夜寺で宿泊しました。

初日は、関東と関西を例に、日本の豊かで多様な文化についてのプレゼンテーションを行ないました。その後、全員がお正月などに行なわれる日本の伝統的な「福笑い」や「型抜き」に参加しました。夜は、オマーンと日本の学生は中東料理のディナーを取りながらお互いに関心のある話題について話し合いました。



本堂にて坐禅の体験修行をする学生たち

二日目は、オマーンと日本の学生は、文字通り坐つて瞑想することを意味する早朝の坐禅に参加しました。朝食後、東京の眺望を楽しむために東京都庁の展望台に向かいました。幸いにも、当日は晴天に恵まれ、富士山も見ることができました。新宿で買い物をした後、全員で昼食をとり、今回の行事を終えました。オマーンと日本の学生が意見を共有し、お互いの文化について多くのことを学びました。最後に、全員から両国間の相互尊重と理解の橋渡しを促進するためにこうした行事が今後とも続くようにとの強い希望が出されました。

大阪大学 Eman Al-Naamari

毎年十一月にオマーン人学生は東京の成願寺で温かいおもてなしを受けます。この年中行事は毎年十一月十八日のオマーン建国記念日の時に開催されます。日本で学ぶすべてのオマーン人学生にとって、成願寺での滞在は日本の平和と静寂を体験する貴重な機



参加者全員で記念写真

会となります。日本オマーンクラブ主催のこのイベントは、オマーンと日本の学生の交流を目的とし、学生たちは、日本とオマーンの文化の類似点と相違点を共有するため、成願寺に集まります。この集まりは、オマーンの学生が豊かな日本文化から学ぶユニークな体験の機会です。寺では早朝に、方丈様と一緒に坐禅を体験する機会があります。また、日本の伝統的な子供のゲーム、三味線ショー、空手の演武なども行なわれます。このイベントは、すべてのオマーン人学生にとっては一生忘れられない最も素晴らしい体験の一つとなります。

交流会に参加したオマーン人女子学生のうち、京都大学（医学）、大阪大学（工学）、慶應義塾大学（メディアデザイン）、関西学院大学（経営戦略）の各大学院で学ぶ留学生四人は、年末年始を成願寺に泊まらせて頂きました。除夜の鐘、新年祈禱等の行事を体験、更に鎌倉の街散歩、山中湖スキー場訪問を行ない、日本の風習・文化に触れました。そして、他国の優秀な学生と交流が深まり、感激です。

山内短信

◎春彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ

三月二十日（月）春分の日

午前十一時～ 受付

午後一時～ 檀信徒総回向

◎春の観音詣りのお知らせ

【日程】四月二十九日（土・昭和の日）

六朝慈母観音様をお祀りする練馬区九品院にて、浄土宗では阿弥陀三尊の脇侍としてお祀りされる観音様の功德等のお話を住職よりいただく予定。午後9時の布施弁天は関東三弁天の一つ。古くから信仰を集める福德財宝の神様です。

成願寺七時半集合―浄土宗九品院参拝・お話し―キックコーマン「もの知りしようゆ館」工場見学・買い物―そば懐石「あずみ野」にて昼食―布施弁天東海寺参拝・お話し―成願寺夕六時帰着予定

【会費】一万三千元

◎井上貫道老師坐禅会のお知らせ

東海地方屈指の禅僧、静岡県掛川市少林寺東堂の井上貫道老師坐禅会を当山南書院で開催しています。

提唱・指導 井上貫道老師

―『正法眼蔵』道元禪師―

日程 三月四日、四月八日、五月十三日、

六月三日（各土曜日／以下未定）

坐禅 午前九時三十分～十二時、

午後一時～一時五十分

提唱 午後二時～三時

茶礼 午後三時～

購本 『正法眼蔵』三 水野弥穂子（岩波文庫）

会費 千五百円

*昼食は各自ご用意ください。（購入時外出可）*ご来場時間は自由です。*提唱のみ聴講も可。*参加希望・お問い合わせは、世話役・豊島（とよしま）（〇四二―五六―一八六三七）まで。

◎当寺近辺に寄宿し、学校等に通う勤勉な方を受け付けます。朝の行事、作務（有給）・朝飯に参加。七時以後自由。僧俗・性別・国籍不問。部屋代一～三万円（月）。詳細は寺務所にお問い合わせ下さい。

*メールアドレス「ogamu@nakanojougantji.jp」

*成願寺ホームページは、検索サイト「Yahoo!」「Google」などから呼び出せます。「URL <http://www.nakanojougantji.jp/>」